

## 受け身

他動詞の文で動作・作用を受けた方（物・人）を主語として言い換えたのが受け身文（受動態文）である。主語が変わるため中国語や英語では語順が入れ替わる。

彼女は私を小突いた	他推我	She poked me.
私は彼女に小突かれた	我被他推	I was poked by her.

日本語では、助詞の働きにより語順を変えないことも可能である。

彼女に私は小突かれた

目的語が二つある場合には、受け身文は二つ作れるが、人が主語になるのが普通である。

夫は妻に誕生日プレゼントを贈った → 妻はプレゼントを贈られた  
「プレゼントが妻に贈られた」は文法的には正しいが使われる場面が少ない。

受付の人は私に名前を聞いた → 私は受付の人に名前を聞かれた

### 1. 直接受け身

他動詞の文は「A は/が B を～する」の形であるが、受け身文は「B は/が A に～された」となる。

#### (1) 人の受け身

上記 B が人（や動物）の場合：

子供は母親に叱られた  
趙さんは部長にコピーを頼まれた

#### (2) 物の受け身

上記 B が人（や動物）ではないとき：

来年オリンピックが日本で開催される	通常は動作主を言う必要が無い
日本は海に囲まれている	動作主が人ではない
史記は司馬遷によって書かれた	動作主を表す場合

### 2. 間接受け身

自動詞の受け身文では通常対応する能動文（受け身ではない文）がない。迷惑の受け身・被害の受け身と呼ばれることが多い。

家に帰る途中で雨に降られた  
一晩中赤ん坊に泣かれた

### 3. 持ち主の受け身

「弟が私のおもちゃを壊した」のような文の受け身は「△ 私のおもちゃは弟に壊された」とはしないで、「私は弟におもちゃを壊された」のように動作・行為を受けた人を主語とするのが普通である。

張さんは、満員電車で足を踏まれた ← 誰かが張さんの足を踏んだ  
汪さんは、財布を盗まれた ← 泥棒が汪さんの財布を盗んだ

#### 補足)

物の受け身で原料、材料を示す文では、原料は「～から」、材料は「～で」で示す。

日本酒はコメから作られている  
この机は木で作られている